

私たちが願う未来



UNICEF (国連児童基金) 東アジア・東南アジア・太平洋地域事務所・保健・HIV・AIDS部長、地域アドバイザー

平林国彦

2003年からUNICEF勤務。アフガニスタン・レバノンで保健部長、東京事務所副代表、インド事務所副代表、東京事務所代表を経て、2016年5月から現職。医学博士

パンデミック以前の世界

新型コロナウイルスが世界中に拡大する（パンデミック）以前、世界では、時が5秒刻むごとに1人の子どもが命を失い、およそ2千万人もの子どもたちが命を守るはずの予防接種を受けることができていませんでした。また、世界中で3億8千万以上の子どもたちが極度の貧困の中で生活し、およそ2千万人の子どもたちは紛争などにより家を失い、劣悪な環境への避難を強いられていました。

UNICEFは、すべての子どもたち、特に、最も脆弱で、最も不利な立場に置かれた子どもたちが、命を失うことなく、そして適切な教育と保護を受け、平和で安全な環境の中で健やかに成長できるように活動している国連の組織です。私は、UNICEFのスタッフとして、戦争や紛争のない国で、実に多くの子どもたちが急性栄養障害で亡くなっているのを目のあたりにしてきました。また、基礎的な治療さえできれば、助けられたはずの、多くの幼い命にも接してきました。私は、このような予防できたはずの子どもたちの死が、単に保健サービスが提供されない、あるいは質は低い、ということではなく、子どもたちを守るべき立場にある人たちの無関心・無行動・無責任にも、大きな原因があると考えています。2030年までの持続可能な開発目標が設定された2015年以来、確かに多くの分野で進展が見られてきました。しかし、パンデミック以前の世界は、私たちがすべての子どもたちのために願う未来とは

依然としてかけ離れたものであったことは否めません。

パンデミック下の子どもたち

それでは、パンデミック下にある現在の子どもの状況はではどうでしょう。2020年7月15日、UNICEFとWHOは、共同で、世界で予防接種を受けている子どもたちの数が驚くほど減少していると国際社会と各国政府に警鐘を鳴らしました¹。予防接種は、現在においても、最も安全で費用効果の高い公衆衛生サービスの一つです。しかし、新型コロナウイルス状況悪化による医療側の人員・資源不足や、親たちの外出への抵抗感、都市封鎖などによる交通手段の運休や移動制限、また収入の低下などの様々な理由で、妊産婦検診や予防接種などの多くの基礎的保健サービスが中断を余儀なくされています²。また、その影響は、貧困や、

一人親世帯、国内避難民、出稼ぎ労働者など社会的に困難な状況にある人たちにより深刻で、これまであった格差がさらに拡大する結果となっています。さらに、2020年5月のJohn Hopkins大学などによる数理モデルを用いた推計では、パンデミックの影響で基礎的な母子保健サービスが中断あるいは利用されなかった場合、サービスの10%から20%の低下に加え、食料不足などで急性栄養障害の子どもが10%上昇する傾向が6か月間継続するという最も楽観的なシナリオでも、開発途上国を中心にさらなる25万人の子どもの死亡と12万の妊娠・出産に関連する女性の死亡が起こるだろう、としています。

予測できなかった危機と一条の光明

2014年の西アフリカを中心に広がったエボラ出血熱など、世界は過去に何度



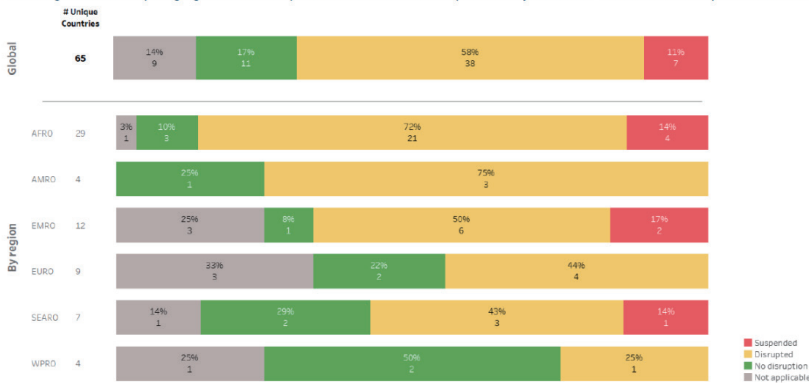
写真1 著者 ウガンダの難民キャンプで 写真クレジット：@UNICEF/UGANDA/1482/Chulho-Hyunjpg

Outreach Disruption: Global

Reported level of disruption to outreach vaccination activities in May 2020 as a result of COVID-19

Based on single calculated status per country
National respondents only

Percentage of countries reporting a given level of disruption. Includes national level respondents only, once 'Other' and 'Do not know' responses have been excluded.



Source: Immunization Pulse Poll 2, Question 5. Displayed percentages are of the calculated single status for disruption level in a country based on the majority response from that country. The data collected are subject to limitations inherent to voluntary self-reporting, self-selection bias, not all countries responded, countries with only one response vs. 4 vs countries with many, possibility of fraudulent responses and not having a sampling frame to make inferences. Furthermore, the information about each country does not represent official reporting from Member States to WHO or UNICEF. Thus, the results presented here need to be interpreted with caution and do not represent in any way a WHO or UNICEF position regarding any country or territory for which one or more replies were received.

Outreach Disruption: Global https://d21hwc2yj2s6ok.cloudfront.net/assets/uploads/20144/asset/Immunization_Pulse_Survey__2_FINAL.pdf?1594865645

も深刻な感染症の脅威にさらされてきました。しかし、前世界銀行総裁が「パニック、無視、パニック、無視の繰り返し」と指摘したように、先進国を含むほぼすべての国は、各国の持つ特有の社会構造的脆弱性（高い生活習慣病罹患率、高齢化社会、不平等・不公正・人種間格差や社会的分断の存在など）や、医療・社会・経済・流通システムの脆弱性（国民皆保険制度か公的資金による保健サービスの未整備や、偏ったグローバルサプライチェーンなど）が、今回のパンデミックにより、国の根幹を揺るがすほどの深刻な危機をもたらすとは予測できませんでした。

現在、新型コロナウイルスのパンデミックは、世界中のいたるところで、子どもたちを含む、極めて多くの人々の健康・経済・社会生活に深刻な影響をもたらしていますが、一方で、貴重な教訓を得ることもできています。例えば、多くの国で、移動手段が制限されている状況だからこそ、地域の保健スタッフの能力向上や、地域住民との協同活動、また地域の保健事務所とのコミュニケーションを頻繁に取ることの重要性を認識され、より統合された保健サービスの提供や診療時間の延長など、利用者の視点に立った保健サービスの改善も行われ始めています。また、住民たち、特に若者たちが率先して、外出ができない独居の高齢者た

ちのために、必要な買い物を代行するなど、住民同士の Social Solidarity（連帯・支え合い）の高まりも多くの国で見られています。WHO のリーダーシップのもとで推進されている新型コロナウイルス対策のための検査や治療薬とワクチン開発、そして、それらのワクチンや医薬品の各国への平等な提供のための国際協調の動きなども、希望の光の一つと考えられます。

同心協力

私たち UNICEF の職員にとって、WHO は各種の保健課題に関する基準・規範を設定する存在であるとともに、互いに理想の未来像（Vision）とすべての人の健康に関する権利を守る説明責任（Accountability）を共有する重要なパートナーです。各国で働く WHO や UNICEF の職員は、パンデミックを早期に収束すべく、互いの長所をいかして協力し、勇往邁進しています。また、困難な状況の中でも、人々が必要とされる様々な保健サービスが継続されるように日



夜努力を続けています。

私たちは、たとえ今回はパンデミックが収束できたとしても、パンデミック前の世界には戻るべきではないと思います。それは、効率性と経済成長や利潤獲得のみを追求した社会や、社会構造的脆弱性や各システムの課題・脆弱性が放置された社会のままでは、再度のパンデミックや環境問題など、人類の存続を脅かすような危機には、十分対処することができないからです。保健・社会・経済の複合危機にある今だからこそ、長期的にも持続発展可能な保健・社会・環境・経済システムに転換させていく決意と行動が必要です。その決意と行動こそが、無関心・無行動・無責任の悪循環を打ち破り、今後わたしたちが創っていく「新しい正常」が現在・未来の子どもたちにとって望む未来へと導く唯一の道だと考えます。

参考文献

1 https://www.who.int/immunization/monitoring_surveillance/immunization-and-covid-19/en/

2 https://d21hwc2yj2s6ok.cloudfront.net/assets/uploads/20144/asset/Immunization_Pulse_Survey__2_FINAL.pdf?1594865645

3 Timothy Robertson, Emily D Carter, Victoria B Chou, Angela R Stegmuller, Bianca D Jackson, Yvonne Tam, Talata Sawadogo-Lewis, Neff Walker, Early estimates of the indirect effects of the COVID-19 pandemic on maternal and child mortality in low-income and middle-income countries: a modelling study, Lancet Glob Health 2020. Published Online, May 12, 2020 [https://doi.org/10.1016/S2214-109X\(20\)30229-1](https://doi.org/10.1016/S2214-109X(20)30229-1)

写真 2

新型コロナウイルスが深刻なインドネシアの中央ジャワ州の村で、安全な距離を保ち（著者注：日本でよく使われるソーシャルディスタンスは）、フェイスシールドをつけながら、家庭訪問をする地域保健・栄養ワーカー。子どもは2歳の女の子。

©UNICEF/UNI329168/ljazahIn-house